

〔評者〕
松田隆秀
聖マリアンナ医大教授・
総合診療内科学



漢方処方ハンドブック

花輪壽彦 編

●B6変型 頁488 2019年6月
定価：本体3,800円+税
[ISBN978-4-260-03914-7]医学書院刊

西洋医学の知恵では十分に対応できない患者さんに対し、漢方の知恵を加えることができればどれだけ素晴らしいことだろうか——私が日常診療で感じていることの1つである。これまで漢方の解説書を手にする時には、これから漢方の世界に入ることに對しての気持ちの切り換えが必要であった。このような現象は私だけであろうか？ 電車の中で本書を手にしてパラパラと数ページを眺めてみたが、本書に吸い込まれるように自然体で全ページを速読することとなった。漢方専門医ではない私にとって、心構えなしで目を通せる漢方解説書との初めての出会いであった。

本書を薦める理由として、以下の点を挙げてみたい。

- ①北里大東洋医学総合研究所のスタッフおよび同門会メンバーが執筆しているため、漢方の概念と用語が一貫して統一されている。
- ②編集者の花輪壽彦氏が執筆されている「漢方の基本知識」の章はコンパクトな解説文でありながら、漢方の概念が自然に身につくような工夫がなされている。
- ③非漢方専門医である読み手でも違和感なく漢方の世

界に入っていくことができるように熟考された、熱意のこもった力作である。

- ④症状や疾患の項では、まず西洋医学に基づいたそれぞれの病態や疾患概念、治療が示され、その後に東西両医学の長所を生かした漢方処方が解説されている。いきなり漢方を全面に押しつけない構成がお見事である。
- ⑤本文に加えてcolumn, memo, Advanced Courseの項目があり、漢方のさまざまな豆知識、うんちくが紹介されている。ここでは漢方専門医である執筆者の日常診療での工夫に触れることができる。
- ⑥付録として医療用漢方148方剤の処方解説が掲載され、日常診療で手軽に処方の再確認ができる。

以上、本書は「西洋医学に漢方の知恵を加えること」を願う医師、薬剤師に向けた実用書である。ポケットサイズであり個人での携帯はもちろん、総合病院においては各診療科ブースにも常備されることをお薦めする。いかなる診療科の専門医からも重宝される座右の漢方解説書になるであろう。